

ふれあいトーク（ジュニア会議）会議記録

- 1、日 時 平成 27 年 7 月 29 日（水） 午前 8 時 45 分から 10 時 05 分
- 2、場 所 二上まなび交流館 第 1 研修室
- 3、出席者 中学生 96 人（夏季連合生徒協議会の参加者）
市長、経営企画部長、教育次長、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 市からの説明（高岡市の市政について、高岡に関するクイズ）
 - (3) 意見発表（「未来高岡」のイメージについて）

.....

意見発表

《高陵中学校》

「活気あふれる町」

中学生

- ・ 全校生徒にアンケートを行い、どんなまちが理想かきいたところ、「活気あふれるまち」「明るいまち」「治安の良いまち」といった意見が出た。
- ・ 高岡市内を散策したところ、公共交通の不便さや、高岡の魅力の PR 不足を感じた。北陸新幹線が開業したこともあり、高岡の PR 活動に力を入れていく必要があるのではないか。
- ・ 豊かな自然を生かした映画やドラマの撮影の誘致、重要有形無形民俗文化財である御車山祭りや、日本三大大仏の高岡大仏の全国的な発信、高岡といえばドラえもんというイメージの定着などを行えば、観光客数ももっと増えるのではないかと。
- ・ まずはキャッチコピーを作るなど、高岡を知ってもらい、足を運んでもらうことが活気あるまちづくりに重要である。

《高岡西部中学校》

「活気あふれるまち ～地方都市 高岡～」

中学生

- ・ 高岡の中心街には市民が楽しめるようなスポットが少ないため、観光客が少なく静かである。高岡の歴史を活かしてもっと観光客を増やせないか。
- ・ 金屋町などには昔ながらの町なみがある。町家を改装して土産物屋や飲食店などを作り話題にすれば観光客も興味を持つのではないかと。
- ・ 高岡には自然との調和が取れた歴史深いまちになってほしい。そのために次の 4 つを行ってはどうか。
 - 1 高岡の人たちにもっと高岡を好きになってもらうため、清掃の企画を行い、町を常に清潔に保つ。

- 2 伝統工芸品をもっと PR する。例えば飲食店で鋳物の食器を利用する。
- 3 高岡の町の古い街並みをもっと発信する。
- 4 巡回バス、観光タクシーを導入し、観光地への交通の便を良くする。

《南西中学校》

「市民、環境、観光客に 『やさしいまち』」

中学生

- ・ 高岡には、市民、環境、観光客にもっと優しいまちになってほしい。
- ・ 市民に優しくするために、高齢者との触れ合いの機会を設けたり、子どもが遊べる施設をもっと増やしてほしい。南星中学校では老人福祉施設との交流を行っており、こういった交流活動の中で充実感を感じている。また子供が増える事でも、市民の充実感が向上するのではないかな。
- ・ 環境に優しくするために、啓発ポスターの設置や、ボランティアによる清掃活動を行ってほしい。また環境の良さが高岡の魅力の一つにもなる。
- ・ 北陸新幹線開業により観光客は増えたが、さらに観光客を増やすために、食事処など、分野別に観光マップを作成してはどうか。またドラえものののび太の家を作ってはどうか。

《志貴野中学校》

「活気と自然あふれる明るいまち」

中学生

- ・ 自然あふれる町にするために、高岡駅前の商店街や公道に植物を植えると、町が明るくなり、夏が過ごしやすくなる。自然保護のため、川や山でゴミ拾いを行う。
- ・ 活気あふれる町にするために、古城公園でイベントを行ったり、駅前の商店街のゴミ拾いやビルの修理を行い環境整備を行う。また新高岡駅の近くに大型施設を作ってはどうか。大型施設には親子で楽しめる場所のほかにショッピング施設やスポーツ施設、伝統工芸品の販売などの場所を設け、市民も観光客も楽しめるものにしてほしい。
- ・ 高岡市のスポーツ活動を盛んにするために、スポーツウィークを設け、その期間中は市内スポーツ施設を無料にすれば、市外からも人が訪れ活気があふれるのではないかな。

《芳野中学校》

「ハイブリッド高岡 若者が住みたいまち 高齢者が安心できるまち」

中学生

- ・ 北陸新幹線開業や近隣市の大型商業施設の開店など、県西部の発展は目覚ましいが、さらなる発展のためには高岡市の発展が必要不可欠である。
- ・ 高岡市の良い点は歴史と伝統があり、自然があふれ、住みやすいところである。改

善点は、県西部の中心としてアピールできるところが少なく、若者が楽しめる場所が少ないところである。

- 歴史・伝統を大切にしながら、若者が住みたいと思い、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを行う必要がある。そのために次の2つを提案したい。1つ目は高岡駅と新高岡駅を動く歩道で結び、その周囲に若者向けのお店や特産品を利用したレストランをつくることである。施設が集中しており効率的にまちを回ることができるので、人が集まり、高齢者も観光客も利用しやすい。2つ目は万葉線を新高岡駅まで延伸し、周囲をベッドタウン化することである。新幹線利用が増えるとともに、観光客も歴史的建造物を巡るのに利用しやすくなる。
- 若者も高齢者も充実した生活を送れるハイブリッドなまちづくりを目指すと共に、そのことを全国に発信し新幹線を利用してもっと人が来るようにしたい。

《伏木中学校》

「自然が人を呼ぶまち」

中学生

- 高岡のまちなかには万葉線が走っており市民生活に欠かせない。北陸新幹線開業以降人の流れが活発になっているため、その流れを万葉線、JR、路線バスにつなげる事で高岡市全体を活性化させたい。
- 伏木には国定公園の雨晴海岸や自然が豊かな二上山があり、大伴家持も二上山で歌を詠んでいる。雨晴海岸は海越しに立山が見えることや、義経岩があることから観光客に人気の場所でもある。毎年この美しい景色を守るために、清掃活動を行っており、こういった自然が人を呼ぶようになってほしい。

《国吉中学校》

「eee まち高岡」

中学生

- eee はそれぞれ環境（Environment）、エコ（Ecology）、いいまち（E）の頭文字である。環境に優しいエコなまちをめざす。
- まず移動しやすいまちをめざす。万葉線を環状線にすることで、市民と観光客の移動手段とし、環状線の内側は電気バスやエコカーのみの通行とし、車の使用を減らすことで二酸化炭素を削減する。公共交通機関で使えるチャージ制のカードを発行することで利便性を図る。
- 観光・商業・自然のテーマに分かれたまちづくりを目指す。環状線にした万葉線付近を観光エリア、環状線の中は商業エリアとし、新高岡駅付近に文化・スポーツ施設を集中させる。生ごみを肥料とし育てた地元食材を使ったレストランなどを設けた通りをつくる。郊外の地域は自然エリアとし、自然を利用したアスレチックなどを設け、日本遺産だけでなく自然豊かな地域にも観光客が訪れるようにする。
- エコなまちづくりとして、市内の施設すべてに太陽光発電装置をつけ、その電気で

小中学校のエアコンを動かす。

- 自分たちでも地域の美化活動を行い、次に高岡を担う世代として、高岡をよりよいまちにしていきたい。

《五位中学校》

「ホームグラウンドなまち」

中学生

- ボールパーク高岡は野球場を中心とした総合運動施設である。高校野球の甲子園のように、中学野球やソフトボールの聖地にしたい。
- ボールパークを城に見立てた野球城下町とし、近隣にテーマパークやホテルをつくる。
- スポーツを通じて誰もがつながる、誰にとっても親しみを持てる、ホームグラウンドなまち高岡をめざしたい。

《戸出中学校》

「ひと、もの、情報が集うまち」

中学生

- 高岡の歴史をふりかえると、400年前の開町以来、鋳物や漆器などを生産する産業都市として発展してきた。また今年4月には古城公園をはじめとして歴史ある様々な施設が日本遺産に認定された。戸出地区にも御旅屋の門がある。
- 近年では東海北陸自動車道・能越自動車道の開通により、高岡は交通の要所となった。伏木港では東アジアの国とも交流が盛んになっている。北陸新幹線も開業したことから、高岡で暮らすひと、もの、魅力を全国に発信できるようになった。
- 便利になった高岡をひと、もの、情報が集まる活気あふれる町にするために、高岡の良さを観光客だけでなく、市民にも伝えていく必要がある。郷土の歴史、伝統産業を知ることや、ほかの地域との比較から高岡の魅力を再発見していかなければならない。高岡市民が高岡を愛することが、全国、海外に魅力を広げることにつながる。

《中田中学校》

「四季折々の祭りが楽しめるまち “高岡”」

中学生

- 高岡がどんなまちであってほしいか全校生徒にアンケートを実施したところ、自然、笑顔、ドラえもんに関する意見が多く出た。
- 高岡には春は高岡さくら祭り、御車山祭り、伏木曳山祭り、夏は高岡七夕祭り、戸出七夕祭り、秋はつくりもん祭り、中田かかし祭り、高岡万葉まつり、冬は日本海高岡なべ祭りなど、一年を通じて祭りがある。
- 城下町となって以来培ってきた歴史、文化、伝統工芸と豊かな自然との融合を図る

ことで、より魅力、活気にあふれるまちになるのではないかな。

- ・ 市民も今まで以上に高岡に誇りと愛情をもち、全国に発信することで多くの人が訪れるようになるのではないかな。

《牧野中学校》

「出会いひろがる魅力的なまち」

中学生

- ・ 牧野地区は住宅地が広がるが、遠くに二上山が見え、田んぼアートなどもある自然豊かで安らげる地区である。牧野大橋の開通により、生活圏も広がり便利になった。万葉線は重要な公共交通手段であり、今後も親しまれる乗り物であって欲しい。
- ・ 北陸新幹線が開業したが、まだ利用したことがないと言う生徒の方が多い。利用したいという生徒は多いので、宿泊学習や修学旅行で利用したい。利用者数増のためには臨時便の増便を目指すだけでなく、夢と笑顔あふれる高岡をめざして、市民や観光客が楽しめる施設を作る必要があるのではないかな。
- ・ 高岡のものづくりの伝統を利用しながら古城公園に高岡城を築いてはどうか。また全天候型で、ドラえもんの世界を再現した、大人も子供も楽しめるテーマパークを作ってはどうか。その中で高岡の伝統を楽しめるコーナーや、高岡のB級グルメを食事として提供すれば、高岡の文化も活性化するのではないかな。

《福岡中学校》

「過去と未来が共存するまち」

中学生

- ・ 高岡市は最新技術、自然、日本文化を兼ね備えている。
- ・ 自然の面では雨晴海岸や豊かな田園風景、文化の面では伝統産業や瑞龍寺などがあり、福岡町にもスゲ生産やつくりもん祭りの伝統がある。最新技術では北陸新幹線、万葉線やリサイクル産業の会社もあり、地球にやさしい最新技術がある。
- ・ 理想の高岡は「住みやすく人に優しい高岡」、「日本文化を守り発展していく高岡」、「新しい技術を発信する高岡」である。

市長

- ・ 「活気」という言葉がよく出てきたが、それは高岡に活気がないと感じられるからだとも捉えられる。誰もがいろいろなことにチャレンジでき、それが少しずつでも実現できるようになれば活気が出るのではないかな。
- ・ 歴史、自然、環境といったキーワードも多かったが、どのように自然と向き合うかが大事であり、快適に過ごすためには知恵を出す必要がある。
- ・ 「優しい」という言葉もたくさん出てきたが、友人、高齢者、自然に優しくありたいという気持ちが大事である。自分だけではなく、相手を理解してコミュニケーションしたいという気持ちを持つことが重要である。行政も、行政の立場だけでなく

市民の立場を考えていく必要がある。

- ゴミ拾いなどの清掃活動についての意見も多かったが、すべて元通りにはならないかもしれないが、快適な状態、きれいな状態を保とうとすることが大事である。今後も、清掃活動に積極的に取り組むという気持ちを持ち続けてくれれば嬉しい。
- 今高岡市では文化創造を推進している。音楽や絵画など様々な文化活動があるが、一番大事なのはそれぞれの暮らしの中で、ちょっとしたことが文化的であるかどうかである。例えばノートを取り方も一つのスタイルであるが、小さなことでも共有し、新しい産業やものづくりにつながっていくことができる。
- 「発信」という語も多く出たが、それぞれが高岡の良い所をもっと発信していきたいという気持ちを持っていることが大変心強い。良いものは良いと説明することが大事であり、高岡をどう見てほしいのか、相手の立場を考えて話すことが必要である。
- 学校の高岡チャレンジプロジェクトで、外国人に高岡の良さを説明する活動があるかと思うが、単なる道案内などではなく、高岡のどこが素晴らしいのか異なる言葉で説明することは大変難しいと思う。相手の立場を考えて話すというコミュニケーションが、みんなで分かり合える社会をつくることにつながると思う。

以上